



《 学区大運動会を終えて 》

## “ 一生懸命は格好いい！ ”

私は、子どもたちが一生懸命に取り組む姿は、素直に“格好いい”と思います。学校生活の中にはそんな姿を見る場面がたくさんあります。授業や学級活動への参加する姿勢、運動会や学芸会の練習や当日の取り組む姿勢、委員会活動や係活動の姿勢、部活動への取り組み、そして、日々の清掃活動でも見受けることがあります。

先週末行われた学区大運動会では、この「一生懸命」な姿をたくさん発見することができました。今後の学校生活においても、「一生懸命」な姿を見守っていきたいと思います。

さて、「一生懸命(いっしょうけんめい)」と「一所懸命(いっしょけんめい)」という2つの言葉の意味やそれぞれの違いについて、お話をしたいと思います。日常生活の中において、「一生懸命」と「一所懸命」という言葉はよく使われています。しかし、この2つの言葉は読み方がかなり似ているので、使い分けができていません。皆さんは、「一生懸命」と「一所懸命」の意味や違いについてご存知でしょうか。

**「一生懸命」の意味** … 一生懸命の意味は「命がけで事に当たること・その様子」「瀬戸際など引くに引けない切羽詰った場合」となります。基本的には前者の意味で用いられ、一生の命を懸けるということで、言葉の通りの意味になっています。元々是一所懸命から転じて生まれた言葉です。

**「一所懸命」の意味** … 一所懸命の意味は「中世において、1か所の領地を命を懸けて生活の頼みにすること・その領地」「命がけで物事をする事・その様・必死・一生懸命」となっています。一所懸命の言葉の由来は、中世（鎌倉時代の頃）の武士たちが將軍様から預かったり、先祖代々伝わっている所領（土地）を命懸けで守ったりしてきたことからきています。そこから転じて、「土地を守る」「命懸けで取り組む」「切羽詰った状態」と、色々な意味で使われるようになりました。そして、近年になってから「一所」という言葉が読み方の似ている「一生」に変化し、漢字として書いた場合にイメージ的にも違和感のない「一生懸命」に変化したとされています。

一生懸命と一所懸命は、それぞれ新しい言葉と古い言葉に分けられます。中世で使われていた一所懸命が、近年になって一生懸命へと転じて2つの言葉へと分かれました。

では、この2つの言葉は、どういう風に使分けするのが正しいのでしょうか。実際の所、一生懸命と一所懸命は様々なシーンにおいてどちらを使っても間違いではないのです。例えば、履歴書の志望動機に文章を書く際に「一生懸命頑張ります」と書いても「一所懸命に頑張ります」と書いても、どちらでも大丈夫なのです。明確に使分けしているのは、新聞社や雑誌社などのメディアです。NHK 放送文化研究所によると、テレビ放送や新聞社などのメディアは、「一生懸命」に統一しているようです。